

実施日：10月14日（1校時）	
領 域：教科（国語科）	
取組名：みんなで楽しく過ごすために（資料「伝えにくいことを伝える」小学校国語6年 光村図書）	
対 象：6年生	実施場所：6年生教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 言語能力を伸ばし、相手の気持ちを考えた話し方をして、より円滑にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <p>第1次 進行計画に沿った話し合いの仕方を知ろう（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合う目的を確かめ、学習の見通しをもつ 目的や条件に応じて計画的に話し合う方法を知る <p>第2次 自分たちで進行計画を作り、それに沿って話し合いをしよう（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割をグループごとに決め、話し合いの進行計画を立てる 全校生が楽しめる「広小ギネス」を計画する 決まったことを実際に試してみて、さらなる改善点について話し合う <p>第3次 伝えにくいことを伝える（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いがうまくいかないときにどう対応したり折り合いをつけたりすればよいかを考える 	
ウ 連携先：家庭、他学年	
エ 連携に向けての取組 <ul style="list-style-type: none"> 通信やHPを利用してこの取組を多くの方に伝える。 普段の生活の中で、子どもたちの言動が相手の気持ちを考えたものになっているか見守ってもらうことを通信や懇談会などで呼びかける。 縦割り班活動の前には、学習したことをふり返り、他学年への話し方について考えさせる。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 実際に全校生で行うイベントをテーマにすることで、他学年を思いやるという6年生としての自覚をもたせ、より主体的に話し合いができるようにする。 ふり返りで話し合いにおける自己評価を書き残し、自己の変容が感じられるようにする。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ノート ・ 発表 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 条件、目的をはっきりさせることで充実した話し合いができた。また、「伝えにくいことを伝える」では、友だちと対話をしながらより良い言い方を発見することができた。ふり返りで、自分が「攻撃的」「保守的」「調和的」なのかを自己分析する時間を設けたことによって、今後自分の話し方に必要なことを考えることができた。 普段の生活の中でも相手の気持ちを考えながらコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。 	
ク 課題 <p>「伝えにくいことを伝える」では5つの場面を想定し、より良い伝え方について考えた。しかし、時間にゆとりがなく、全部の場面を考えさせることができなかつた。目的や互いの立場を考慮して試行錯誤しながら伝え方をグループで考えていただけに、この部分にもっと時間をかけることができれば更に充実した学習になったと思う。</p>	